



天草架橋地点

土地改良も各地で

そのほか「産業基盤の整備」の一環として「土地改良事業」も着々進められています。

農業の近代化を進めていく上には、積極的に土地改良事業を推進していく必要があるというわけで、県の機構の上でも、土地改良部を発足させました。事業をみると、三十四年から「球磨南部土地改良事業」が、総額七億円で進められており、現在すでに五〇%以上進捗しています。

また、三十六年から「玉名平野土地改良事業」が総額八億円を着工され、現在菊池川の白石堰を施行中です。これら二

つの事業が完成すれば、毎年約三億数千万円の経済効果が見込まれます。

そのほか、三十六年度からは新たに「受託県営土地改良事業」という制度をつくり、県が事業主体にかわって、技術と経費を援助しながら工事を進めていくことにしました。

そこで、三十六年には早速球磨郡木上溝ほか三地区について、この制度を適用して、工事を進めています。

三十七年度になると、菊池郡の「花房台地」及び天草郡の「楠浦地区」の土地改良事業が、県営として採択され、畑地かんがいや用水改良が実施されようとしています。

今後の問題としては「玉名南部台地」「八代平野」「球磨川北部沿岸」の土地改良事業や「不知火海締切大干拓」等があるわけです。

また、農業や工業を進めていく上には、いろいろ今後に残された問題がありますが、なかでも「水」の問題をまず第一に考慮しなければなりません。

「球磨川」については、県営発電所が完成し、近い将来「古田ダム」を建設して、これと関連して「八代平野の総合開発」をも進めたいと県では考えています。

また「菊池川」の開発については、今年度から国の調査費もついているので、急速に具体化に乗り出したいと考えています。

「緑川」については、すでに防災ダムとして「天君ダム」の着工が決定しています。これは、御船町ほか三カ町村にわたる洪水防止のために、総事業費約十億円で建設しようというものです。

緑川は、国の直轄河川に編入してもらうことに成功しており、このダムの建設と関連して、治水、利水の問題を進めていくというわけです。